

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.28 (2018.7.27)

平成30年度スローガン
みんなで目指す顧客感動経営
140年企業としての誇り
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄



多くの船大工があり、「和賀丸」という木造船を所有していたとの記録もあります。また当時の橋梁は木造であり、この木橋の製作架橋技術が土木技術の元となり、県内外で学校などの大型木造建築物を請け負う建築技術の礎となったのです。

明治10年(1877年)創業者和賀市蔵が、皆瀬川河畔で舟運業を営んだのが和賀組の生業の始まりとされております。当初は皆瀬川・成瀬川上流からの木材や護岸用の石材の運搬が主だったようです。当時は日本海沿岸を往来する「北前船」により上方の物資や文化が運びこまれ、帰り荷で農産物や鉱物資源などが運ばれておりました。土崎港から雄物川を上り羽後町の鶴巣までは大型船で運ばれ、上流へは小型船に積み替えて運ばれておりました。明治38年9月14日に岩崎鉄橋が完成し、奥羽本線(福島駅-青森駅間)が全通し、これを機に物流は水運から鉄道へとその主役の座を明け渡したのです。当時の和賀組には

昨年創業140周年を迎え、創業の地岩崎を離れて今年本社を柳町に移転致しました。大きな決断ではありましたが、10年・20年後さらにはこれからの100年を見据えての決断でした。もちろん老朽化し手狭になったという理由もありますが、一番の目的は優秀な人材の確保です。名実ともに地域ナンバーワン企業を目指す上での最優先課題は言うまでもなく和賀組の未来を担う若い人材の確保です。加速度的に進む少子化の流れの中で、高卒者は年々減少し新卒者の採用が厳しさを増す中ではありますが、何としてでも人材を確保して行かねば未来はありません。おそらく今後10年で起こりうることは人材の企業間格差です。つまり優秀な人材を確保できない企業は淘汰される時代が来るのだということです。

9年後に当社は創業150周年を迎えます。その時に「本社移転が飛躍への大きな転換期であった」と言えるように私たちは成長しなければなりません。九州・中国地方で頻発する大災害を目の当たりにする今日、改めて全員が私たち建設業の使命を再確認し、この地域にも起こるかも知れないという緊張感を持ちつつ、地域の安心安全な暮らしを担うという気概を持って仕事に臨まなくてはなりません。2027年の和賀組の姿を全社員が明確にイメージし、顧客感動経営という基軸を変えることなく経営環境の変化に対応するという「不易流行」を実践して参りましょう。

はなこまち初代会長に千葉部長

6月29日、湯沢グランドホテルにおいて(一社)雄勝建設業協会女性部の設立総会が開催された。名称が「はなこまち」、初代会長に当社の千葉愛地盤事業部長が選出されました。



ユニオン建設安全大会

7月2日、東京メトロポリタン池袋にてユニオン建設株式会社安全大会が開催され、当社鉄道工事部柴田龍司課長代理が表彰されました。これからも無事故で頑張ってください。



クリテックジャパン代理店会議

7月13日東京にて開催され、当社からは小田嶋工務本部長とコンクリート事業部高橋一弘課長が参加しました。福山大学宮内教授が「乾式吹付け工法におけるTS100の強度特性の現状」と題して講演し、品質低下に警鐘を鳴らす貴重な講演でした。

